國際建築

12

【プレート】

銀座パレス
味の素ビルディング
大阪歌舞伎座
デイリー・エキスプレス新聞社
一住宅
カトリック教會堂
バウハウスの閉鎖

【本文】

山脇巖・バウハウスの閉鎖について
笹間一夫・屋上飛行場研究
佐藤武夫・ボード類の吸音性
青山忠雄・新住宅術提唱
津田鑿・歐洲の旅
能瀬久一郎・郊鄉習俗採珠譜
井上房一郎・トロッケンバウ・日中醫院
BIBLIOTHEK

國際建築協會發行

1932

BAUHAUS-ARCHIV DARMSTADT
4446

昭和三年六月二十九日第三種郵便物認可（毎月一回十日發行）昭和七年十一月十日發行

KOKUSAI-KENCHIKU VOL. 8 NO. 12 DECEMBER 1932

CONTENTS

PLATES

„ginza palace", caffe, tokyo ... k. ishimoto ... 253

azinomoto building, tokyo ... t. yasui ... 254-255

osaka kabukiza, theater, osaka ... obayashigumi co. ... 256-259

daily express, london ... herbert o. ellis and clarke ... 260-265

a house at north foreland ... oliver hill, ... 266-267

neue katholische saisonkirche ... prof. dominikus böhm ... 268-269

„der schlag gegen das bauhaus", photomontage ... i. yamawaki ... 270-272

ARTICLES

„der schlag gegen das bauhaus" ... i. yamawaki ... 465-469

the study of airport on the roof ... k. sasama ... 470-479

sound absorbing characteristics of building boards ... t. sato ... 480-485

an adovocacy of new housing problems ... t. aoyama ... 486-487

on the tour in europe ... s. tsuda ... 488-489

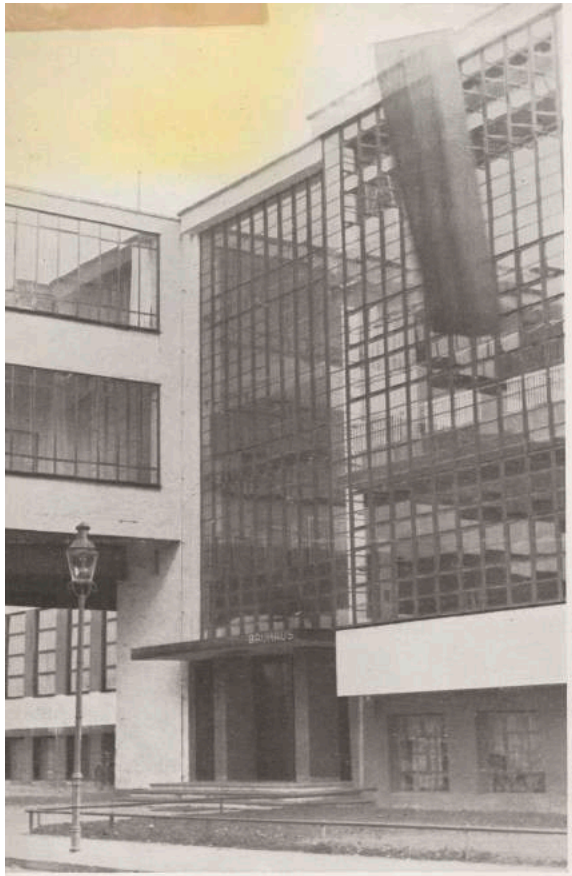
country houses ... h. nose ... 490-492

tanaka physi cian office, dry construction ... f. inoue ... 494

published monthly by
KOKUSAI-KENCHIKU-KYOKAI
INTERNATIONAL ARCHITECTURAL SOCIETY
2-46 ichibecho azabuku, tokyo japan
M. KOYAMA editor

yearly subscription:
japan ¥ 6.50
foreign ¥ 7.00
single copies: ¥ 0.60

B 1420
1932 Ra
BAUHAUS-ARCHIV
DARMSTADT
4446
Obj.Id-76912

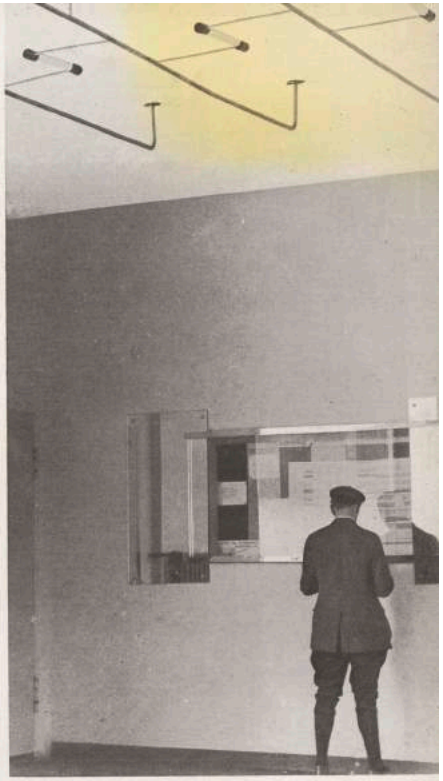


◀ 閉鎖されたバウハウス

バウハウス學期末の展覽會の一部 ▶
公開前に市會議員の „檢閲" を必要とする

„DER SCHLAG GEGEN DAS BAUHUS"

バウハウスの掲示場 ▶



fotomontage : iwao yamawaki 1932

„DER SCHLAG GEGEN DAS BAUHUS“ fotomontage : iwao yamawaki 1932

バウハウスの閉鎖について

伯林　山脇　巖

1930年10月の國際建築誌上へ、前所長、ハンネス•メイヤー氏（hannes meyer）の言葉をひいて、又同年同月の建築新潮誌上へも„バウハウスの近況“として、バウハウス第三期の轉換を報じて置いた。滯在二年餘の今日、バウハウスの最後を書かればならぬ機會にぶつかつた。ミース•ワン•ダー•ローヘ氏（mies van der rohe）就任——1930•10——から、今年の7月まで、バウハウスに居た筆者として、其結末を報告せればならぬ義務を感じる。二年間のバウハウスの生活については何れ稿を改めて書き度い。

獨逸政變——國粹社會黨の擡頭、獨逸の文化には種々の變化が與へられた。其一つとしてバウハウスの危機を擧ける。

1930年7月13日のベルリナー•ターゲブラットはデツサウからの電報として次の記事を掲載して居る。

——デツサウのバウハウスにとつては國粹社會黨は常に眼の中のゴミである。

國粹社會黨總理大臣フライベルグ（freyberg）は、現今の狀態では我慢出來なくなつた。先頃、彼は市會議員と共に所謂„檢閲“を行つた。極く短時間ではあつたが。所長のミース•ワン•ダー•ローヘは說明を餘儀なくされた。

この„檢閲“の結果は不明なれど、事實は事實として、敎授シュルツェ•ナンブルグ（professor schultze-naumburg）が關係して居た事は確實である。或る國粹社會黨員の說に依れば、アンハルト（anhalt）の新しい政權に依つて、バウハウスに對する補助金を豫算から削除することに決議するだだろうと。何んの考慮もなくバウハウスの最後を近からしむる樣に、事を進めるのである——

と報じて居る、又次に、同情の眼を以て

——若し事實、閉鎖される樣な事になれば、これは國粹社會黨のなし得た、文化及び美術に對する、敵意的の新しい不快な、成功であろう。

バウハウスの高級な藝術的仕事、及び教育方針に對しては、以前より國粋社會黨は壓迫を續けて居た。しかし、バウハウスの仕事に對しては、現代の藝術から離して考へる事は不可能である。其形式や方法は、獨逸の工藝美術に對して、標準になる樣な影響をも與へて居る。實質的で、行きとゞいた、實用的な、美しい手法は、工藝と建築に於て第一に盛んになつたデサウのバウハウス及び、指導者たる信用すべき藝術家で、藝術教育家たる、ミース・ワン・ダー・ローヘ氏を除いて他に求められぬ。
バウハウスの仕事は、組織的に、藝術上でなく政黨的な爭ひにのみ依つて、犯されつゝある。而して國粋社會黨の、新しい運動が成功したならば、其方面に於て最も悲しむべき結果となるであろう。——

續いて、14日の新聞は、其危機が、確實に近か寄りつゝある事を報告して居る。

——其筋の確かな說明は未だないが、バウハウスが終りに近かづきつゝあると云ふ事は、絕對に確實になつた。國粋社會黨がデッサウに於て支配權を握つたとして、議事日程の第一はバウハウスに對する目論見であろう。
……當分バウハウスは仕事を續けて居る。
一體、どんな事件が起つたのだろうか？學期末の展覽會は開かれた。
支配權を持つた政黨の代理者が、„檢閲" した。シュルツェ・ナムブルグは鑑定人として同行し、所長ミース・ワン・ダー・ローヘは案內役として立つた。
而して、ミース・ワン・ダー・ローヘはバウハウスの教程に就いて說明した。バウハウスの主要な、プログラムは、工場勞働を必要とすること、仕事は實用的で、藝術的であること其實用的で、工業的である仕事は、其れ自身藝術的の考へが調和しなければならぬ。出來上つたものは、又藝術的でなければならぬ、其れは、一つの壁紙でも、織物でも、廣告でも陶器でも同樣であつて、所謂、文化ボルシエビズムスと云ふ事には無關係である。又昔のバウハウスがやつた所謂文學的のものでもない。
デッサウに於ける、グロピウス式のバウハウスは1926年から存在する。デッサウへ來た、研究生の五分之四は獨逸人であつて、他の五分之一は外國人である、この仕事が外國に如何に興味をひいて居るかと云ふことは其訪問者の數でも分かるだろう。世界中からバウハウスの組織を見學する爲めに、1926年以來、25000から30000人の工藝美術の愛好家がデッサウを訪問して居る。……バウハウスの „消滅"。勿論 „消滅" はデッサウから亡くなる意味である。——

以上の記事が發表された。

二三年以來あらゆる機會に其經濟上の苦しい立場は明かに證明されて居る。
1931年から32年へかけての工場關係の熟練工の整理は、其度毎に研究生の頭腦を苦しめて居た。
堅く團結して此危機を救ふべく、當局へ提出されるバウハウスラーの決議は、常に理由なく否決されて居た。
在伯林のバウハウス友の會々員は、集る度毎に仕事の話題より、目前のバウハウスの危機に其問題は集中されて居た。
8月23日の伯林新聞は、„der schlag gegen das bauhaus" の見出しでバウハウスの閉鎖を簡單にかたづけてしまつた。
世界各地に散つて居るバウハウス友の會々員は、此の記事に驚きの眼を見はつた事だろう同時に獨逸國粋社會黨員の文化に對する無智を歎いた事であろう。
22日のデッサウよりの電文に依ると、

——デッサウ市參事會は國粋社會黨の提議に依り、バウハウスを1932年10月1日限り閉鎖する件。及び全教師に對する契約解除の件。について投票せり。
其提議に對し、國粋社會黨員15票。市民4票。市參事會員1票。反對者側は、市會議員5票。社會民主黨員は棄權せり。——

これに依つてバウハウスの最後は確定したわけである。
8月24日、各バウハウス友の會々員は、所長ミース・ワン・ダー・ローヘ氏の名前で最後の通知を受けとつた。
——1932・8・24
1932年8月22日聯合評議會に於ての決議に依り、バウハウスは1932年9月30日限り閉鎖さる。私は出來得べくば、このバウハウスを他の立場から尙前進さして行き度い。しかし只今確言する事は出來ない。
研究生諸君の盡力の結果に依つて、私は9月の中旬頃迄には更に報告を交附する事が出事るだろうと考へる。——

1926年來のデッサウのバウハウスは當然解體されると云ふ事になつてしまつた。

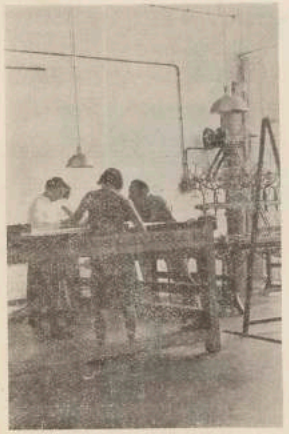
休暇中の工場勞働者も此の9月5日に中止された。
再會を約して伯林へ來た筆者に對し、二三の同僚から歸郷の通知をも受けとつた。グロピウス氏のバウハウスも、デツサウ郊外に其舊い作品として徒らに膨大な死骸を横へることになつてしまつた。
手紙中にある、所長の他の立場からとの意味は餘りに莫然として居る。筆者は個人として餘り大きな期待は持たぬ。恐らく、全バウハウスラーの批判もこの近くにあるだろう。現所長を中心に再擧を計つたとしても眞の意味での „デツサウのバウハウス" は最早再現しない事は明かな事實であろう。
これより二三日前の伯林ターゲブラットの日曜閑錄の紙上で國立藝術院のエドウイン・レツトスロブ博士 (dr. edwin redslob) は、バウハウスの特長及び缺點をあげ、この高級の文化團體が政黨上の爭ひに依つて解散させられる事の悲しむべきを述べて居る。
其他バウハウス出身者及び建築家アルフレツト・ゲルホルン博士 (architekt dr. alfred gellhorn) の意見をも掲載して居た。社說として、エルウイン・グトキント博士 (dr. ing. erwin gutkind) の此事件に對しての皮肉な批判が書かれて居た。

——積極的に目下の狀態の許で考へ、或る程度までデサウのバウハウスは一つの現代的の時流に合へる活動であると謂へないだろうか?
この否定出來ぬ事實だけでも、獨逸のみならず、世界に定評ある工場を閉鎖した理由であるらしい。
しかし直接にこの事實が直ちにバウハウスの禍となつた。
現在のアンハルト當局がシュルツェ・ナムブルグを鑑定人として、あと押しや助言をなさしめ、バウハウスを閉鎖さしたと云ふ事は非常に重大な事件と見るべきである。……この討究が政治の立場から利用されたと云ふ事は殘念な事だ。……
誰れに向つて攻擊が行はれて居るのであろうか?
學生に向つてであろうか、又敎師に對してか?それとも、其仕事の種類に對してか?
若し、學生が强く政治化されて居るとしても、局外者が批判を下すべきものではない。例へそれが事實であつても學校に對しかれこれ謂ふ理由とはならぬ。
反對者側から否定することの出來ぬ程、價値ある仕事をなし、又經濟的にも効果的で、しかも、工業家と手を握り或る一定の方法で見本や刺戟となる仕事をして居るこの學校に對して、手を下す理由とはならぬ。
この批判は總べての政治的考察とは全く關係ないものである。……バウハウスは一種

要求から起る强い力に對しては反抗する事は困難な事に違ひない。……種々なバウハ變つたものだつたので、それが政治的にとり入れられたのである。……しかし現代のウスの繼續に對しての試みも殆んど効果はないらしい。一つの本質的の文化の記錄を破壞しない樣に上の方から干涉する事は出來ないものか?
政治的の興奮の度は甚だ高いが、なんとか解決をつける材料と手段が確かにあるに違ひないと想ふ。——以上

1925年、時のチユーリンゲン社會民主黨政府の爲めにワイマール (weimar) を追はれたバウハウスは、七年目の1932年9月に國粹社會黨の手に依つて又デツサウを追はれた。
デツサウのバウハウスは完全に踏みにじられた。しかし世界の各地に散在して居るバウハウス的集團力は何れ何にかの形式で、又頭を持ち上げて來ることゝ考へる。
ハンネス・メイヤーの謂ふ、デツサウの三つの名所も „wörlitz" 公園と „junkers" の二つになつてしまつた。

ミース・ヴン・デー・ローヘ氏よりの次の報告を待たずに筆者は英國への旅に出かける。再び伯林へ戻る時分には其新しい計畫も發表されることだろう。 (1932・9・4)



左・市の補助金緊縮で1932年4月に惜しくも解雇された織物科唯一の熟練工——技術敎師W.(右端)と研究生
右・幾度か研究生の會議室に使用された食堂。——時には國境、人種、男女を超越したバウハウス祭の會場となる——